地域医療支援病院運営委員会議事録

令和元年６月７日（金）19:30～

事務局　　（開会前の資料確認・委員紹介）

「それでは皆様、お時間となりましたので、始めさせていただきたいと思います。」

「皆様、本日はお忙しいなか、令和元年度第１回　千葉市立青葉病院地域医療支援病院　運営委員会にご出席をいただきまして、誠にありがとうございます。」

「私は、本日、司会進行を務めさせていただきます、当病院事務局事務長補佐の鈴木と申します。どうぞよろしくお願いいたします。」

「開会に先立ちまして、お配りいたしました資料の確認をさせていただきたいと思います。」

「まず、お配りいたしました資料でございますが、

１　配布物一覧

２　運営委員会次第

３席次表

４　委員一覧

５　地域医療支援病院としての役割を果たす要件の実績報告

以上５点となります。不足等はございませんでしょうか。」

「よろしいでしょうか。」

事務局

「続きまして、出席委員及び職員のご紹介をさせていただきます。

まず、外部委員の皆様よりご紹介いたします。」

〇千葉市歯科医師会　会長の、金子（かねこ）委員でございます。

〇千葉市薬剤師会　副会長の、中村（なかむら）委員でございます。

〇千葉県看護協会　常任理事の、内山（うちやま）委員でございます。

〇古川医院、院長の、古川（ふるかわ）委員でございます。

〇こいで内科消化器科クリニック、院長の小出（こいで）委員でございます。

〇千葉市消防局　局長の、兼巻委員でございます。

〇千葉市保健福祉局健康部　部長の今泉（いまいずみ）委員でございます。

なお、「千葉市医師会　会長の齋藤（さいとう）委員」、「柏戸病院、院長の斉藤（さいとう）委員」、「千葉市保健所、所長の大塚（おおつか）委員」におかれましては、本日欠席となっております。

また、このたび、消防局の委員が、大塚委員から兼巻委員に代わっておりますので、ご挨拶をお願い致します。」

兼巻委員

「４／１付で消防局長に就任致しました、兼巻と申します。前任の大塚と

同様によろしくお願い致します。」

事務局

「続きまして、内部委員及び職員をご紹介いたします。」

〇青葉病院、院長の山本でございます。

〇診療局長の横田でございます。

〇診療局長の六角でございます。

〇看護部長の樋口でございます。

〇地域連携室長の志鎌でございます。

〇事務長の岡崎でございます。

〇医事室長の西村でございます。

〇地域連携室　副室長の菅原でございます。

「なお、薬剤部長の安見につきましては、本日欠席となっております。」

「また、このたび、診療局長の六角が、新たに委員に加わりましたので、ご挨拶をお願いいたします。」

六角委員

「今回初めて参加させていただきます。先ほど自己紹介させていただきました、整形外科の六角でございます。私は旧病院、平成８年からこの病院に赴任していまして、３１年になります。４月から診療局長ということで、今まで整形外科の方では専門が手の外科ということで、上

肢外科の方をメインにやらせていただいてますけども、他に救急の外傷等引き受けさせていただいていますけど、地域支援ということで、今後も私のできる限りの協力をさせていただきたいと思いますのでよろしくお願い致します。」

事務局

「ありがとうございました。」

「出席委員及び職員のご紹介は以上でございます。どうぞよろしくお願いたします。」

「それでは、地域連携室長の志鎌より、開会宣言を行います。

よろしくお願いいたします。」

志鎌地域連携室長　　（開会宣言）

「これより、令和元年度第１回千葉市立青葉病院　地域医療支援病院運営委員会を開会いたします。開会に際し、山本委員よりご挨拶をお願いいたします。」

山本院長

「みなさんこんばんは。今日は天候の悪い中、また遅い時間にお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。千葉市ではですね、市立病院のあり方委員会というものが開かれていまして、昨日第３回が開かれました。あり方委員会というのは、海浜病院の老朽化で建て直しをするということだけ

でなく、全体として千葉の医療をどうやっていくかといったような事について検討をされています。青葉病院はもちろん、計画的医療として、今まで救急、精神科、感染、血液、そういったものを担っていきまして、それは当然だと思いますけども、それ以外にも中央区にあって、地域の中央区、あるいは緑区、若葉区の先生方、住民の方々の地域支援あるいは、在宅の患者さんへの支援といったことにおいても、非常に我々は力を尽くしてきたつもりですし、それからもその部分についてはしっかりとやっていかないといけないと思っています。それから、大きな救急以外にも、青葉病院もこういった役割を病院としてはどんどん進めていかなくてはいけない、非常に大事な会議だと思っています。今日はよろしくお願い致します。」

「では、この会議の議事進行を、当病院の地域連携室長であります
志鎌委員にお願いしたいと思います。」

「それでは、志鎌委員、よろしくお願いします。」

志鎌地域連携室長

「地域医療支援病院としての役割を果たす要件について、地域連携室の菅原から説明をさせていただきたいと思いますよろしくお願いします。」

菅原委員

「地域医療支援病院としての役割を果たす要件の実績報告をさせていただ

きます。平成３０年４月～平成３１年３月までの分についてご報告させていただきます。」

１．地域医療支援病院の紹介率・逆紹介率について

昨年度の地域医療支援病院紹介率は７１．９％でした。前年度は６８．２％でしたので、多くの紹介をいただいたことになっております。

地域医療支援病院逆紹介率は９０．５％。前年度は７９．９％でしたので、前年度を上回る逆紹介率となっております。

紹介患者数は９９８０人でした。前年度は９９３９人でしたので、６００人以上多くの紹介患者さんをお引き受けさせていただいております。

初診患者数は１８８３９人、昨年度１３６９３人でしたので、５１４６人の新患患者様が増えて来院されております。逆紹介患者数は、１２５５４人、昨年度は１０９４７人でしたので、１６００人以上の患者様を先生方の所に紹介させていただいております。

２．救急医療の提供実績

救急車で来院された患者さんの数は、４９６６人、前年度４３３４人でしたので、６３２人の救急車で搬送された方をお受け入れしております。合計しますと６７５０人の救急患者様をお受け入れさせていただいております。前年度より２６３名多くの患者様をお受け入れさせていただきました。

３．共同利用の実績

病床の利用実績はございません。

共同利用できる高額医療機器の設備等の共同利用につきましては、前年度１６３件でしたが２４８件と大きく伸びております。

ホールあおばの貸出につきましては、中央区の千葉寺地区の多職種連携会議に１度このホールをご利用いただいております。

４．地域医療従事者に対する研修開催実績

平成３０年４月～９月にかけて、４月～９月まで在宅医療コーディネーター研修会、これは６回コースで１３９人のケアマネさんに参加していただきました。

その他 8/29 と 2/27 に千葉市医療連携カンファレンスを開催させていただいて、院外からの開業医の先生方にも多く参加していただいております。

また、11/15 には第４回在宅医療連携カンファレンス、在宅へお帰りになった患者様のカンファレンスを毎年１回させていただいておりますが、これも４回目となって、前回は急性白血病の患者さんの在宅支援について、黒砂台診療所の先生と連携をしたケースについてご報告をさせていただいております。

その他３月には先生方にもご参加していただきました、医薬品の適正使用の推進ということで、２回研修をさせていただいております。

５．患者相談の実績

患者相談については、社会福祉士３名、看護師２名が担当させていただいております。入院患者さん１８８９人、外来患者さん５１０人、その他３６０６人、合計６０００人を超える患者さんの相談を担当させていただきました。

相談件数は、総件数としては、右側の方にあります５３５３３件と、昨年度に比べ多くの相談の件数を担当させていただいております。相談内容としては、転院・施設入所についての相談が多くなっております。その他の件数がかなり増えておりますが、それは受診方法や書類に関するもの、また簡単なお問い合わせや、開業医の先生からのお問い合わせなど、それを全部含めますと電話での色々なお問い合わせが、かなり増えてきております。直通電話を設けていますので、そこの直接かかってきているものが多くなっております。

６．その他の地域医療支援病院に求められる取り組みについて

①病院の機能に関する第三者による評価

平成２７年に受審申し込み、平成２８年７月２８・２９日病院機能評価機構受審し、平成２９年１月末に認定すみ。昨年度９月に期中の改善報告を提出しております。

②果たしている役割に関する情報発信

広報誌「あおば」は６月と１２月、年２回発行させていただいております。

広報誌「もえぎ」、これは地域連携室から開業の先生向けに、色々な情報発信をさせていただいております。これは年に１８回発行させていただいております。

平成３０年度は「診療案内」を改訂させていただいております。先生方のお手元に郵送させていただいたり、紹介患者さんが来院した折にはファイルに入れてお持ち帰りいただけるようにやらせていただいております。

「病院案内」は８月中旬までには開業医の先生方のお手元に届くように、院長と一緒に訪問させていただき、配らせていただいております。

③退院調整部門

退院調整部門につきましては、先程お話しした通り、社会福祉士３名、看護師２名で担当しております。平成３０年４月より「退院支援加算１」に加え、入院センターを開設しておりまして、「入院時支援加算」を算定し始めております。

地域連携に関する診療報酬算定実績につきましては、入退院時支援加算は

昨年度は７００件程度でしたが、１５２９件まで伸ばすことができました。また、先生方からの緊急入院、在宅で療養している患者さんの緊急入院につきましては、在宅登録のない患者さんにつきましても多く受け入れさせていただいております。これは６２件、昨年度は４８件でしたので、在宅療養し

ている患者さんを救急車でお受け入れすることがかなり増えてきています。また登録患者さんにつきましても、昨年度は８件でしたが、１３件受け入れをさせていただいております。また登録はないんですが連携していただいている、往診の先生のところから１４件お受け入れさせていただいております。

④地域連携を促進するための取り組み

当院は大腿骨頚部骨折地域連携パスの運用をさせていただいております。８２件、その前の年は６６件でしたので、かなり増えております。脳卒中パスにつきましても１３件、前年度と同じ件数を運用させていただいております。

志鎌地域連携室長

「それでは、地域医療支援病院としての役割を果たす要件について、ご意見がございましたらお願いします。」

古川委員

「地域医療支援病院としての役割、毎回データを見せられて、徐々に青葉病院の果たすべき役割が地域で理解されてきているんだなと。数を見ますと、病院紹介率７２％になっているし、逆紹介率９０％ですね、これはガイドによりますと内容がどういうことでこれだけ良くなっているか、わからないのですが、病院側としては、支援病院としての内容の拡充の大きな要因は何であったのかということは当然考えなくてはいけないですけども、果たして何であったのか、最も大きな要因は何だったのでしょう。」

山本院長

「紹介率・逆紹介率が増えてきたというのは、１つは青葉病院が１件１件の紹介を受けてその患者さんを買収ということが、先生方に浸透してきて、毎年毎年上がってきたのかなと、手前味噌では思っています。当院としてもなるべく周りの先生方と連携を深めるように広報誌を出したり、カンファレンスをやったり、顔の見える連携をするように毎年進めて参りました。当然全部がうまくいっている訳ではありませんけども、何か問題があった時には、私が自らその先生の所へお電話したりして、それを解決するように努力はして参りましたので、そういったことが少しずつ実をなしてきたのではないかというふうに思います。」

古川委員

「私もまさにその通りだと思うんですけど、こうやってデータが良くなってきているということに職員の皆さんが自信を持って、さらに良いデータとなるように、お仕事は大変だと思いますけど頑張っていただきたいと思います。地域医療支援病院として青葉は見事に成長していると思います。」

志鎌地域連携室長

「地域連携室では、紹介状は必ず返事を書くように、書かれていない紹介状はスクリーニングをかけて、きちんと紹介元に戻すということを努力しています。」

古川委員

「伸びがいいですよね。」

志鎌地域連携室長

「目標はもうちょっと高いところにあるんですけども、私の目標は心の中では紹介数は１２０００を目指しているんですが。月１０００件を目指して、心の中で。またよろしくお願いします。」

志鎌地域連携室長

「それでは他のご意見はどうでしょうか？」

「もしないようでしたら、説明の通りとさせていただきます。

本日用意した議題は以上なのですが、令和元年度の１回目ということもありまして、委員の皆さんからお一人ずつご意見をいただきたいなというふうに思います。ではまずは金子委員からお願い致します。」

金子委員

「果たして本当にこんな伸び方があるのかなと思ったんですけど、初診の患者さんがかなり増えているみたいなんですけど、これはなにか訳があるんでしょうか。」

志鎌地域連携室長

「訳があるといえば、地道な宣伝活動というのは、開業医を回り始めて、地域医療支援病院が発足した頃から力を入れて、我々がやっている医療がきちんと開業医の皆さんに伝わるように広報を発行したり、なのでそういうこ

とが１つ１つ伝わってきたのかなというふうには思います。」

金子委員

「ではやっぱり初診は午前中だけですよね。」

志鎌地域連携室長

「では今度は中村委員からお願い致します。」

中村委員

「私、薬剤師の立場からですけども、このたび千葉市薬剤師会の方で、青葉病院の方で処方箋の中に検査値を入れているということを聞きまして、薬剤師としては、疑義照会というのは非常に効果があるので、検査値が入るとより増えることが想定されますし、疑義照会で先生方の診療の手を止めてしまったり、患者さんを薬局で待たせてしまったりということが課題でしたので、できるだけ疑義照会できるものはお互いに疑義照会済みという形で実施させていただければと思います。今近隣の会員の中で説明会をして、下の方からこの７月から全会員に全面的にやらさせていただいて、今まで３ヶ月テスト期間として実施させて頂いている中では、患者様から病院に当たられる先生方からの質問に好評だと伺っております。もしも院内の先生からご意見があればいただいて帰りたいと思いますので、よろしくお願いします。」

山本院長

「これは元々大学病院では初めから位置づけとして、大学が決まった検査値以外にも疾患、疾患の固有のデータも出しているんですけども、当院とし

てはそこまでできないので、決まった７～８個、１０個程度のものも出しています。目的としてはやはり患者さんの医療安全を目指すということで、薬剤師の先生方にもそういった数値を見ていただいて、個々の薬剤の副作用をチェックしていただきたいと思っています。疑義照会が増えるのではないかということで、院内でも薬剤部を中心に検討させていただいて、本当に必要な疑義照会と例えば患者さんにあまり影響のないものに分けまして、医師の方には、患者さんにあまり関係のないものは後からという形でいくような形で、薬剤師さんにお返ししたりするシステムになっていますので、なるべく迷惑をかけないようにしたいと思っています。よろしくお願いします。」

志鎌地域連携室長

「薬剤部と近隣の薬局との勉強会なども薬剤部に企画していただこうと思っていますので、そんな中で意義紹介を含めて色々なことがまっていればいいなと思っております。よろしくお願いいたします。」

内山委員

「私は紹介率・逆紹介の件で、相当院長先生の士気がないと、私も他の総合病院に長らくいましたので、きっとおそらく声掛けと、地域連携室長の声掛けと、医師業務支援室との連携が重要になってくるので、ご苦労されているのかな、この数字から見えるなというふうに感じました。あと、地域との連携の研修会など、予定より多い研修なんかはまたそれも評価で、今後何かにつなげて行けるのかなというふうに思いました。患者相談も、社会福祉士

３名と看護師２名で、人数がかなり少ないのにこの件数をこなしているのは、相当走り回ってやっているのではないかなと。病棟には担当者はいらっしゃらないのですか。退院調整リーダーみたいな。」

菅原委員

「連携室の中で病棟担当が決まっているのですが、病棟の方にも退院調整に興味がある看護師がいて、看護部は看護部で退院支援の勉強会をやって、お互いに連携するようにしています。」

内山委員

「そうすると、各病棟にリーダーとなる退院調整看護師を育てていくと、多分この人数だとそっちのほうがうまくいくかなというふうに思いますのでご参考にしてみて下さい。」

志鎌地域連携室長

「人材、大切ですよね。でも少しずつ充実してきて、今年からやっとフルメンバーになりましたので、少しは充実してくるかなと。」

古川委員

「総合的な事は先ほどお聞きしましたので、ちょっと気になった事があります。甲状腺外来、専門外来、患者さんの動向はどうですか。いたら患者さんをぜひ紹介したいと思っているんですが、いないんですよ今。どうでしょう。」

山本院長

「ホームページにも出していますので、患者さんは増えてきています。主には胸部 CT とか頚動脈エコーでたまたま写ってしまった腫瘤があって、はっきりしないということや、あるいは千葉市内だけでなくて、遠方から千葉市に帰ってくる方でホームページを見て、甲状腺を専門にやっている病院ということで指名をされて来る患者さんもいらっしゃいますので、数自体は少しずつ増えてきています。問題は甲状腺腫瘤、良性のものがほとんどなので、何年間くらいフォローするか、というのが逆に問題でして、ある程度の年月こちらでフォローして、大丈夫そうだったら、元の所にやはり逆紹介をするようなことを考えていかないと、甲状腺エコーの枠がパンクしそうになっているので、週に１日だけ木曜の午前中だけやっているので、大体２０～２５人くらいやって、多いと７～８人穿刺するということを繰り返していますので、その辺もう少し考えていきたいと思います。」

小出委員

「私も十何年か前になりますが、勤務医だった時、地域支援の連携室を立ち上げに携わりましたけど、逆に今度は使わせていただいていますが、青葉の地域連携室は評判が非常にいいと思います。うちのスタッフも気持ちよく対応していただいているし、あとは他の病院は人がどんどん変わっちゃう、地域連携室のスタッフもどんどん変わっていっちゃって、担当の Dr.も変わるし、担当のスタッフもどんどん変わっちゃいます。あれ、この前いた人、少

しコミュニケーションが取りやすくなったなと思ったんですが、変わってしまうという病院は中央区すごく多くて、顔の見える機会に顔を合わせても、半年か１年くらいしかいない、非常に使いにくい、使いにくいというか、顔が見えて、気持ちも通じていくような感じの連携室ではなくなっている所も多くて、そういう意味では、こうお互いに真剣に話して、この患者さんに関しては真剣にもっと早めでお願いしますとか、その辺が阿吽で伝わるような感じの連携室になっていると思うので、それが正確に繰り返されて伸びに繋がって信頼関係が築き上げられているのではないかなというのが本音の私の主張です。

　あとはここの所、新聞で気になっていたのは、急性期病院等が非常に拡充されてきて、都市型では急性期病院はかなり充足されてきている。これからの課題はリハビリ、リハビリ病床が少し足りないという、今後の流れに考えられるんじゃないかということを言っていましたけど、その辺は地域支援病院としては求める所かどうかわかりませんが、どうでしょうか？」

山本院長

　「当院は急性期病院でありますが、リハビリ機能も持っていて、急性期のリハビリをやって、その間で自宅に帰られる方は自宅に帰るし、帰られない方はリハビリ専門の病院に転院されるという形になります。リハビリ病院自体は少しずつ千葉市内で増えていまして、千葉みなとの所にまた新しく建つ計画がありますので、それほど不足はしていないのではないかと考えます。

当院の中でももう少しリハビリが必要な人のために、回復期病床が必要かというのは、検討しているところでして、それについてはまた来年の診療報酬会でもありますので、そういったことを見据えていきたいと思います。」

古川委員

「山本先生はご存知なんですけども、千葉県の地域医療構想、病床配分ありましたよね。あれが今後どういう形で落ち着くかということに関係してくると思うんですけど、急性期病床が２０２５年までに減少するのはしょうがない、そういう方針ですから、ある程度はしょうがない、その分回復期か慢性期病床を増やした時に、どういうふうにこれを利用していくか、これはまた考えなければいけない問題だと思います。ただ決定的な形にできてませんので、これからの問題でしょうね。」

兼巻委員

「まず、久しぶりにお礼を言いたいと思います。おそらく千葉市消防局では救命士のご指導を青葉病院さんにお世話になっておりまして、ご協力いただきましてありがとうございます。市の救急医療のために患者さんを運ぶという業務が多くございまして、そういう意味では２番目の、今日のお話ですと救急医療の提供実績というところでは、非常に・・・させていただきました。そして数字を見せていただきましたところ、昨年の救急用又は患者輸送自動車により搬入した救急患者の数が約 5000 人、約 630 増えるということですけど、ご負担にはなっていると思いますが、私どもにしては非常に助か

っているところでございます。非常に救急を受け入れてくれたんだろうなと思っています。私どもの救急隊員が、かなり件数が多くなってきて、行った後に疲弊していることがかなりあります。ですから早め早めに何件目という件数、病院さんに問い合わせした件数が少なくなれば、病院に患者さんを搬送できる時間も短くなるし、受傷者ためにも状態が悪くならない中で運べるということが非常にお互いに有意義だと思いますので、その意味では数字が良くなっているというのは、この数字を千葉市の救急隊員にも伝えてですね、青葉病院さんは頑張っていただいていると、数字で示したいと思います。本当にありがとうございます。」

志鎌地域連携室長

「９月５日に当院の院長とうちの医師を講師として、消防隊員の方にうちの病院がどんなことをしていて、どういう仕事をしているか、消防隊員の方のための講演会を予定しているので、消防隊の方に周知していただければと思います。」

今泉委員

千葉市健康部で地域医療の関係を担当しているんですけど、青葉病院さんは、救急患者を非常に多く受け入れていただいております。まずお礼を申し上げたいと思います。なかなか救急の体制、今まで組んできたものが、救急患者さんがとにかく増えているので、うまくシステムとして回っていないというところがあって、それをどうするかというのを検討している中で、院長

からご意見をいただいておりますけども、その中で実際に多くの困難事例も含めまして受け入れていただいているというのは、千葉市全体の医療にとって、とても大きな存在だと思っております。資料の一番上にある、地域医療支援病院、これも、公立病院として、市立病院がどういう役割を果たすか、税金の入っている病院ですし、色々考えなければいけないところはあるかと思うんですけども、地域の医療を支えるような役割が必要になるのではないかと思っておりまして、救急もそうですし、こういう地域医療支援それから、働いたふうにどうかかわるか、色々な課題があるかと思うんですけれども、色々協議させていただきながら、私どもとしても考えて行きたいなぁと思っております。どうぞよろしくお願い致します。」

志鎌域連携室長

「一応地域包括ケア実績への貢献というのも、１つのうちの病院のテーマになっておりますので、医療職だけでなくて、コメディカルまで色々な企画を出していけたらなというふうに考えております。」

「ただいまの提案にご意見いかがでしょう。」

「ご意見がないようであれば、以上をもちまして、令和元年度第１回千葉市立青葉病院地域医療支援病院　運営委員会を閉会させていただきます。本日はお忙しい中ご出席をいただきまして、誠にありがとうございました。なお事務局よりご連絡がございますので、よろしくお願い致します。」

事務局

「事務局より、次回は、例年どおり２月の開催を予定しております。詳細が決まりましたら、地域連携室よりご連絡させていただきますのでよろしくお願い致します。本日はお疲れの中、誠にありがとうございました。」